

1 学校教育目標 たくましく かしくく とともに生きる子供の育成	2 本年度の重点目標 ①自ら安心・安全で健康な生活を送ろうという意識をもたせる。 ②自ら進んで取り組む学習習慣を身につけさせる。 ③思いやりと助け合いの心を持たせる。
--	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	・自らの生活をよりよいものに改善しようとする態度の育成	・自らの夢や目標の実現を目指すためにも、自己肯定感、自己有用感を高める。 ・自分の良さや自分のがんばりを認め、「自分が好き」と応える児童を85パーセント以上にする。	・年間通して、児童一人一人の良さに目を向け、全校放送で紹介する「ほめほめ活動」を実施し、全児童220名それぞれの良さを年間3回以上紹介する。 ・学級において、児童が互いの良さを認める活動を日々実施する。
①「たくましく」…自ら進んで自分の生活を向上させようとする意識を持たせる。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・自らが健康であるために生活習慣を見直す意識の育成 ・安心・安全を意識した生活習慣の育成	・朝食摂取率を95%以上に保つと共に、主食、副菜を意識した朝食内容の改善を図る。 ・業間休みや昼休みに運動場に出て運動することの習慣化を図る。(90%以上) ・健康のために睡眠時間の確保について習慣化する。「10時前には寝る」と答える児童を90%以上とする。 ・自転車に乗る際のヘルメット着用を義務づける。(着用率95%以上)	・学期に1回朝食調査を行う。 ・「保健だより」、「学校通信」「学級通信」を通して朝食の重要性を訴えると共に、学級懇談等で話し合う機会を持つ。 ・学級ごとに「みんなで遊ぶ日」を設定させる。 ・情報モラル研修会を児童・保護者とともに開催する。 ・SNS、ゲーム、TV等の利用(視聴)時間について学級指導を行う。また、学級懇談会での話題に取り上げ、児童・保護者への啓発の徹底を図る。 ・PTAと連携し、ヘルメットの購入を保護者に促す。交通安全教室などを通して児童に着用意識を身に付けさせる。
②「かしくく」…自ら進んで学習する意欲を持たせ、基礎学力の定着と判断力・表現力の育成を図る。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	・自主自立的な学習習慣の育成 ・基礎学力の定着 ・判断力・表現力の育成	・授業の終末に自らの学習を振り返らせることで、自己評価力を育成する。 ・家庭と連携をとり、家庭学習の充実を図り、土日も自主的に学習する習慣を付ける。(土日の未学習率を10%以下とする。) ・標準テストの知識理解領域の正答率を全国平均にする。 ・自分の考えを書く、伝えることを習慣化するとともに、読書を奨励しことばの力を付ける。 ・「他者との交流活動が好き」と応える児童の割合を90%とする。	・全校で学習過程を統一する。(算数科学習) ・算数科におけるノートのとり方を全校で統一する。 ・全教科の終末に本時の「振り返り」を学習過程に位置づける。 ・学期に一度、家庭生活を振り返る週間を設定し、家庭学習時間、就寝時間、SNS、ゲームの時間を振り返らせ、児童の意識改善と保護者への啓発を行う。 ・各教科ごとの語いを教師が意識して指導するとともに、習得した語いを使うように誘う。 ・「しろたタイム」前に自分の考えをノートに書かせ、その後の自分の考えの変容についても記載させる。(学年の発達段階に応じた方法で実践) ・全ての教科の学習過程に「しろたタイム」を設定し、互いに対話することが自らの学びにつながることを全児童に理解させる。
教育活動	○ユニバーサルデザイン教育の推進	・全ての児童が参加しやすい授業づくり ・支援を要する児童への理解	・全学級で板書の統一を図る。 ・支援を要する児童について担任としてどのような支援が必要としているのかを具体的に理解する。(個別の支援計画・教育計画の充実)	・ユニバーサルデザイン教育の研修会を年2回開く。 ・どのような板書が視覚支援を必要としている児童にとって効果的か研修し、全学級で統一して実践する。 ・全職員が個々の特性把握に努める意識を持ち、誰もが積極的に参加できる学習方法について研修を深める。
③「ともに生きる」…思いやりと助け合いの心を育てる。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・道徳教育、人権・同和教育の充実	・「自分を大切にしている」と答える児童の割合を90%以上とする。 ・家族や友達を大切にしていると答える児童の割合を90%以上とする。	・互いの良さを認め合う活動を授業中や朝の会、帰りの会に設定し、他者から認められる喜びを感じ取らせると共に、他者を認めることの大切さについても感じ取らせる。 ・家族や地域から、コメントを書いてもらうことで、自己有用感を高める。
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめの未然防止、早期発見に向けた児童自らの意識・態度の育成	・毎月心のアンケートを実施する。児童に当事者意識を持たせ、ちょっとしたことでもアンケートに記入する習慣化を図る。「学校の先生に悩みを打ち明けやすい」と答える児童の割合を90%以上とする。	・いじめにおいて傍観者は加害者であるということを道徳の授業などを通して理解の徹底を図る。 ・日記などにより、アンケート以外でも担任に悩みを相談しやすい環境を作る。 ・担任以外のものも全児童の名前を覚え、話しかけるようにすることで情報収集力を上げる。 ・教師自身が、児童の様子をしっかりと観察し見逃さないために、未然防止、早期発見の研修を行う。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・超勤時間の削減	・毎日19時30分には学校を施錠する。 ・月45時間以下の超勤を全員が目指す。	・教頭を通して18:00に全職員に声をかけ、仕事の優先順位を確認する。 ・来年度の学習指導要領本格実施を前に、再度行事の見直し、教育課程の見直しを行い、事務処理を行う時間を確保する。 ・同僚意識を高め、個人に仕事が集中しない組織作りを行う。
学校運営	○開かれた学校づくり	・公開授業の充実 ・学校行事への保護者の参加意識の向上	・授業参観日の保護者の参観率を70%以上とする。 ・学級懇談への参加率を50%以上とする。 ・学校行事に積極的に参加したと答える保護者の割合を70%以上とする。	・週1回を目途に、学校通信を発行し、学校での児童の様子や学校での取り組みについて分かりやすく伝える。 ・行事の前にメール等による保護者の参加を呼びかける。 ・参加して良かったと思える学級懇談について教職員で検討する。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目